

2011.6.18

没後100年

最後のシンフォニスト

マーラー

第7回

マーラーの夜の歌と
夜をめぐる音楽

プログラム

昨年の生誕150年、今年は没後100年と2年に渡ってマーラーを特集するシリーズの第7回目、今回は歌曲集「リュッケルトの詩による5つの歌曲」と交響曲第7番を取り上げます。ドイツの詩人フリードリッヒ・リュッケルトの詩に出会って書き上げたこの歌曲集は、自分を見つめ直すような、日々の思いを素直に表現した作品とされています。従って穏やかな瑞々しい曲想が多くを占め、マーラーの重要な作品のひとつとなっています。交響曲第7番は最初、ナハトムジーク、「夜の音楽」と名付けられた第2、第4楽章が作曲され、その後第1、第3、第5楽章が一気に書き上げられたと伝えられています。全曲を通して聴くと実に奇妙でハチャメチャな音楽に聴こえますが、一つ一つは実にユニークで幻想的、色彩的な宇宙感を持つマーラー・ワールドが展開、全交響曲の中でも異彩を放つ作品です。

今日は夜の音楽にスポットを当て、他にヴィヴァルディ、モーツァルト、そして昨年一度聴いていただいたエルガーの作品をアンコールとしてもう一度聴いていただきます。「ひとつの小さな夜曲」と名付けられたモーツァルトのセレナードは優美で美しい旋律が次々と湧き出てくる名曲。ヴィヴァルディのフルート協奏曲「夜」も良く知られた作品で、短い6つの部分からなり、第2部分には「妖怪」、第5部分には「眠り」という副題が付けられて夜を描写します。エルガーを加えたこれらの作品も合わせてお楽しみください。

クスタフ・マーラー (1860~1911):

歌曲集「リュッケルトの詩による5つの歌曲」から

ほのかな香りを ~ 美しさゆえに愛するのなら ~ 私はこの世に忘れられ

イヴォンヌ・ミントン (ソプラノ)

ホルスト・シュタイン指揮ウィーン交響楽団

(1979.6.17 ウィーン・コンツェルトハウス大ホールでのLive)

アントニオ・ヴィヴァルディ (1678~1741):

フルート協奏曲第2番ト短調op.10の2「夜」全曲

ジャン・ピエール・ランパル (フルート)

クラウディオ・シモーネ指揮イ・ソリスティ・ヴェネティ

(1965年録音 エラート盤)

ウォルフガング・アマテウス・モーツァルト (1756~1791):

セレナード第13番ト長調K.525「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」全曲

カール・ミュンヒンガー指揮シウトウツガルト室内管弦楽団

(1982.11.11 東京文化会館大ホールでのLive)

クスタフ・マーラー (1860~1911):

交響曲第7番ト短調「夜の歌」~ 第1楽章から、第2楽章から

小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1989.6.18 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

*** 休憩 ***

クスタフ・マーラー (1860~1911):

交響曲第7番ト短調「夜の歌」~ 第4楽章、第5楽章

小澤征爾指揮ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

(1989.6.18 ベルリン、フィルハーモニーホールでのLive)

エドワード・エルガー (1857~1934):

夜の歌op.15-1

加藤知子(ヴァイオリン) / 江口 玲(ピアノ)

(1997.11.18~20録音 DENON盤)